



第191号

発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 新任あいさつ
- ③ 校友会・KMS・FUNDだより
- ④ 芝蘭会評議員会・理事会
書籍紹介 支部だより 滋賀 島根
- ⑤ 支部だより 近畿北 東京 和歌山
- ⑥ 人事異動・会員計報

「未来を拓く」テーマに講演

第20回京大病院臨床懇話会

パネルディスカッションでは活発な意見交換も

平成29年2月12日、「平成28年度京大病院臨床懇話会」が芝蘭会館で開催され、学内外から110名の参加がありました。同懇話会は、地域医療との連携を推進するため、



あいさつをする稲垣暢也院長
暢也病院長 信雄 信雄病院長 アシテム病院長 寺南病院長



6氏で行われたパネルディスカッション

授(副病院長／小児科長)から「京大病院における「新病院整備計画」の周産期医療の歩み」について、南部 雅幸 特 定教授(先 制医療・生 活習慣病研 究 センタ ー)から「京 大病院をヘ ルスデータ サイエンス の拠点にす るために」 篠塚 健特 定病院助教 (初期診療・ 救急科)か ら「産科救 急につい て」近藤 英治 講師 (産科婦人 科)から「京大病院にお ける周産期医療の歩み」 についてそれぞれ講演が ありました。

最新の研究成果披露 第15回京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会



医学部附属病院は、第15回京大病院 iPS 細胞・再生医学研究会を芝蘭会館で開催しました。

平成29年度の受章者
春の叙勲
瑞宝中綬賞
池谷 東彦 (昭和 39 年卒)
元愛媛県立医療技術大学長

同研究会は、医学部附属病院での iPS 細胞、ES 細胞および体性幹細胞などをを用いた再生医学研究の向上および成果の普及を図り、医療の発展に貢献することを目的として2009年11月に発足し、今年で8年目となりました。第15回目となる今回の研究会では、学内外から過去最多の180名を超える医療関係者等が参加しました。iPS 研究会では、稲垣暢也 医学部附属病院長「写真右」の開会挨拶の後、出雲正剛 武田薬品工業株式会社医薬研究本部再生医療ユニット

退任あいさつ



本年3月31日をもって、京都大学医学研究科発達小児科学教授を退職することになりました。在職中は、公私にわたり格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。着任とともに、京大病院における小児医療の立つ位置の向

医学研究科発達小児科学教授 平家 俊男

頼りにされる小児科を目指して

で、小児血液腫瘍、小児免疫、小児循環器、小児神経、新生児など多くのサブスペシャリティを、同一人がかけ持つことは、その専門性の高度化により困難な状況です。また、限られたスタッフ数の中で、専門性と安全性を担保することは容易ではありません。そのため、私の着任と同時に、京大病院小児科内で整備すべき領域に優先順位をつけ、領域によっては関係病院との連携も含めて柔軟に対応してきました。総合診療科と専門診療科とのバランスを分けし、どの分野も高いレベルの標準医療を担保しつつ、高い優先順位をつけたサブスペシャリティ領域では、全国の患者さん、

の中で、未開拓の領域であった自己炎症性疾患群を一つの分野として育て上げ、小児科の領域を超えて、内科、皮膚科にまたがる領域で、日本のインシアティブをとれたということも大きな成果でした。厚労省AMEDの研究代表者を長年にわたって務めさせて頂き、診

きました。稼働率は100%を維持、1000g未満の超低出生体重児の救命率は95%程度を維持しており、NICUとしてのレベルの高さを誇っています。さらに、過去3年間出生体重500g未満の児に限った救命率は100% (n=8) となっており、救命し得た児の最小出生体重は285gです。このことは、我々の診療レベルが世界最高峰であることを示しています。研究面においても、経験医療に留まりがちな新生児医療に対して、大学院生がNICU現場における臨床研究をもとにエビデンスを提示し、論文作成、学位取得を行う事例も育ってきました。また、循環器領域、神経筋疾患領域においても、着実に歩みを進めてきました。

レストラン「くらん」
業務委託会社変更のお知らせ
永らくご愛顧いただきました京都プライオンホテル(株)による営業は、平成29年3月で終了し、同年4月1日から新たに、良質な料理の提供を行うことで定評があります(株)クサツエストアホテルによる営業を始めております。引き続きレストラン「くらん」をご利用頂きますようお願いいたします。



新任あいさつ

平成28年12月16日付をもちまして、京都大学大学院医学研究科放射線医学講座 放射線腫瘍学・画像応用治療学の教授を拝命いたしましたので、芝蘭会員の諸先生方にごあいさつ申し上げます。

私は平成元年に京都大学医学部を卒業し、京都

ました。平成5年からは、大学院生として阿部光幸先生の下でMRI装置を用いた放射線治療計画システムの開発に従事いたしました。大学院修了後は天理よろづ相談所病院へ赴任し、平成11年に助手として京都大学の放

強度変調放射線治療の研究に従事いたしました。ここでは最先端の研究内容にかかわるとともにマシンの開発に従事いたしました。大学院修了後は天理よろづ相談所病院へ赴任し、平成11年に助手として京都大学の放

されています。一方、放射線生物学研究の臨床応用として、放射線増感作用を活用する化学放射線療法が一般化しております。しかしながら照射法一つをとってもまだまだ工夫の余地が大きいです。免疫放射線療法のような新たな研究分野も登場しております。今後、放射線腫瘍学の新たな展開を目指して、放射線物理・生物の両面から研究および臨床展開を有機的に進め、我が国を代表する放射線腫瘍学の拠点を引き続き発展させるよう全力を尽くす所存でございます。

皆様方におかれましては、どうぞ御指導・御鞭撻のほどよろしく申し上げます。

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

座となり、泉孝英教授、平成13年からは三嶋理晃教授の時代を経て、現在に至ります。

呼吸器内科の特徴として、がん、感染症、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息、間質性肺疾患、睡眠呼吸障害など疾患が

予想されます。呼吸器病は近年、格段の進歩を遂げてきましたが、肺がんの治療をはじめ肺実質障害に対する根治的治療は不足しており、疾患の慢性化、難治化する病態も多くみられるようになってい

放射線腫瘍学の新展開へ

医学研究科放射線医学講座
放射線腫瘍学・画像応用治療学教授

溝脇 尚志



を担当する講座として、昭和52年に当時の放射線医学講座から分派する形で阿部光幸先生が初代教授にご就任され、平成7年に2代目教授に就任された平岡眞寛先生の下で国内最大規模の放射線腫

大学の放射線科・核医学科(現在の放射線治療科・放射線診断科)へ入局いたしました。平成2年からは、田附興風会北野病院の放射線科へ赴任し、各種放射線診断およびIVRに従事いたし

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

野は私が入局当時では想像もできないほど大きく発展してまいりました。機器・医学物理面ではIT技術の応用による高精度放射線治療が一般臨床現場に普及し、粒子線治療施設も多く建設

このたび平成29年3月1日付で医学研究科器官外科学・婦人科学産科学分野に着任いたしました。今後、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

当教室は明治34年に初代吾妻勝剛教授により創始されて以来、歴代の教

に早く、ひとつ対応を問う。しかしながらこのようないかなる要因は、産婦人科が今後、新しい時代に対応した分野に生まれ変わっていくのに最適な機会ですし、もともと大変魅力的な産婦人科という学問の領域をさらに発

い、心からおめでとうと言え、診療科ですが、それにも増して、「ひとの再生産」という学問は、学問そのものとして大きな魅力を感じています。私自身がこの分野を選んだのも、いつか、産婦人科でなければできない革

点になる可能性があり、それだけに技術的にも倫理的にも安易に取り扱われるべきことではありません。お母さんの(一応、お父さんも)健康と幸福をこれまで責任をもって見守り続けてきたわれわれ産婦人科医は、今後もこのような最先端の医療技術がもたらす成果を積極的に受け入れつつ、それを本当にわれわれにとって価値あるように使える努力をしてまいります。

平成29年3月1日付で京都大学大学院医学研究科眼科学の教授を拝命いたしました。この場をお借りして芝蘭会会員の先生方にごあいさつ申しあげま

が、会員であることは全く意識することはありませんでした。平成26年3月に香川大

香川大学では多くのことを学ばせていただきました。京大では研究が重視され、その価値観は教室員をはじめ多くの先生方の共通であったように思います。私は長年京都大学にいましたのでそ

れの人に適した役割分担を行うことが重要であると思っています。教育や教室運営など一般には評価され、愛される教室です。患者さん、近隣の先生方から信頼されたいと愛され、教室員の先生方、同窓会の先生方が誇りに思うことができるような教室にしたいと思っています。その中で、京大特有の自由な風土を守っていけば、教室には優秀な若い医師が大勢いますので一層活躍していくことができると思います。まだ、着任したばかりで不慣れな点も数多くあると思います。今後とも変わらぬご指導をいただけますようお願いいたします。

京大でも臨床教室の医

産婦人科発展の機会

医学研究科器官外科学・
婦人科学産科学分野教授

万代 昌紀



授がそれぞれの分野で歴史に残る業績を残してきた伝統のある教室で私で10代目になります。120年になるのかという教室を背負う責務をひしひしと感じているところでもあります。一方で、現代は時間の流れが非常

リスクそのものである時代だと感じています。産婦人科はこれまで比較的保守的な傾向がありましたが、ここに来て、ロボット手術、がん遺伝子の診断、出生前診断、着床前診断といった大波が押し寄せており、四苦八

展させる機会でもありません。医学という学問はその大部分が個体保存への貢献で成り立っています。産婦人科は唯一、種の保存を医学的かつ統合的に扱う分野です。臨床的には分娩という人生の一大イベントに立ち合

新しい医学が到来する、と考えたからです。そして今、再生医療や子宮移植といったわれわれ人間のリプロダクシオンシステムを大きく変える技術が世に出ようとしています。これはひとの歴史における転換

産婦人科はとても大きなポテンシャルを秘めた、魅力的な領域です。ぜひ、われわれとともにこの世界を切り開いていく若い医師を待っています。今後ともご指導・鞭撻よろしく申し上げます。

来、京大病院、倉敷中央病院、京都大学大学院、神戸市立中央市民病院など、Bosonへの留学以外は京都大学およびその関連施設に在籍してまいりました。その間、芝蘭

同窓会の先生方、芝蘭会香川支部の先生方に公私にわたり、サポートをいただくとよって3年間職務を全うすることができました。心より感謝すると同時に、同窓の先生方のありがたさを感じ

の価値観に慣れていました。しかし、このような価値観は一般的ではないことが京大を離れると実感しました。最近の人の価値観は多様化しており、各人の能力・特性・指向も様々です。それぞ

いると自覚し、教室に属していることを誇りに思っています。また、着任したばかりで不慣れな点も数多くあると思います。今後とも変わらぬご指導をいただけますようお願いいたします。

京大でも臨床教室の医

信頼され、愛される教室に

医学研究科眼科学教授

辻川 明孝



産婦人科はとても大きなポテンシャルを秘めた、魅力的な領域です。ぜひ、われわれとともにこの世界を切り開いていく若い医師を待っています。今後ともご指導・鞭撻よろしく申し上げます。

来、京大病院、倉敷中央病院、京都大学大学院、神戸市立中央市民病院など、Bosonへの留学以外は京都大学およびその関連施設に在籍してまいりました。その間、芝蘭

同窓会の先生方、芝蘭会香川支部の先生方に公私にわたり、サポートをいただくとよって3年間職務を全うすることができました。心より感謝すると同時に、同窓の先生方のありがたさを感じ

の価値観に慣れていました。しかし、このような価値観は一般的ではないことが京大を離れると実感しました。最近の人の価値観は多様化しており、各人の能力・特性・指向も様々です。それぞ

いると自覚し、教室に属していることを誇りに思っています。また、着任したばかりで不慣れな点も数多くあると思います。今後とも変わらぬご指導をいただけますようお願いいたします。

京大でも臨床教室の医

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学大学院医学研究科・
医学部 管理棟 1F 総務掛内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.
med.kyoto-u.ac.jp

学生の教育・研究支援へ 助成金増額も必要

KMS・FUND委員長
循環器内科学教授
木村 剛



平成29年度の京都大学
医学部教育研究支援基金
(KMS・FUND) 委員会
の委員長を拝命いたしま
した循環器内科学の木村

剛と申します。昨年度か
ら委員を務めておりま
す。平成19年の発足から
10年が経過したこの教育
研究支援基金の活動を他
の委員(別表参照)と一
緒に更に発展させたいと
考えております。

KMS・FUNDは「学
生の学習や研修活動の教
育支援、大学院生の研究
活動などの研究支援」を
主目的に設立されており
ます。この基金創設によ
り学生の御両親、御家族

いただいた皆様に心より感
謝申し上げます。

平成29年度のKMS・
FUNDの事業計画とい
たしましては、学生会館
の継続的な環境整備に加
えて、京都大学医学部の
学生、大学院生の教育・
研究活動の支援がありま
す。具体的には、平成25
年より医学部若手研究者
優秀論文賞(KMYIA)
として3名の大学院生、
学生に表彰状、賞金20万
円を出しています。実際
には、当然ですが大学院
生の受賞が圧倒的に多い
のですが、今後は是非、
学部学生で受賞される方
が現れることを期待して
おります。また昨年度か
ら特色入試に合格した学
生に対し入学時から経済
的に支援するMD研究
者育成助成金を交付して
おります。当該学生は
MD・PhDコースという
研究者養成に特化したプ
ログラムに進みますが、
6年間の在学中は毎年助

成を受ける事が出来ま
す。昨年度は特色入試の
合格者は1名のみでした
が、今年度は2名が合格
いたしましたので、合計
3名に助成を行います。
また臨床実習助成金とし
て学生1名あたり4万円
の支援を行っております。
京都大学医学部の臨
床実習(ポリクリ)は現
在5〜6回生の2年間に
72週のハードスケジュ
ールとなっております。臨
床実習のかなりの部分は
関連病院の臨床教授の先
生方に御指導をお願いす
る形となっております、学生
にとつては多くの優れた
関連病院で学ぶことがで
きるといふ利点の一方
で、京都大学の関連病院
は東の静岡から西の福岡
まで広範囲に渡っており
学生の交通費や宿泊費の
負担が大きくなるという
問題点があります。これ

に対しては助成金の増額
などの対応も必要ではな
いかと個人的には考えて
おります。

またKMS・FUNDの
発足から10年が経過した
ということで、医学部学
生会館の建設に続く、後
に残る意義のある事業の
計画が必要であるという
意見が委員会の中で多数
出て来ております。今後、
学生のニーズを聴き、寄
附者に御納得頂けるよう
な事業を企画して行く所
存です。



医師の使命忘れずに 卒業生代表あいさつ 長尾 宗一郎

本日私は私たち卒業生
のためにこのような盛大
な祝賀会を開催してい
たこと誠にありがとうございます。
また、ご多忙の中
にご出席いただきまし
た先生方、父母の皆様
に卒業生一同こころより
お礼申し上げます。

充実した大学生活は
瞬く間に過ぎてゆき、6
年前の春、今日と同じよ
うに芝蘭会館にて開催さ
れた入学祝賀会がつい昨
日のことのように思い出
されます。京都大学らし
い「自由の学風」の精神
に則った一般教養科目に
始まり、各分野の第一人
者として世界に名を馳せ
る先生方による基礎科
目、京大病院での最先端
の知見に基づく臨床科
目、そして全国各地の開

校関係の皆様の一層の御支
援を心より御願ひ申し上
げます。宜しく御願ひし
ます。

若手研究者優秀論文賞KMYIA受賞者の言葉

日本医療研究開発機構
臨床研究・治験基盤
事業部 臨床研究課
三宅 正裕

このたびは素晴らしい
賞をいただきました。私
は、京都大学大学院医
学研究科眼科学教室に
おいて、吉村長久教授
の下、加齢黄斑変性や
強度近視などの眼科疾
患につき、ゲノムを中
心とした研究を行って
おりました。大学院卒
業後は、中央省庁との

人事交流経験活かす

人事交流の一環として、
厚生労働省保険局医療
課(医療機器・対外診断
薬の保険適用・先進医療
審査、診療報酬改定等
を担当)及び日本医療研
究

開発機構(AMED)臨
床研究・治験基盤事業部
臨床研究課(革新的医
療技術創出拠点プロジ
ェクト、臨床研究治験
推進研究事業)に関
係事業、統合医療を所

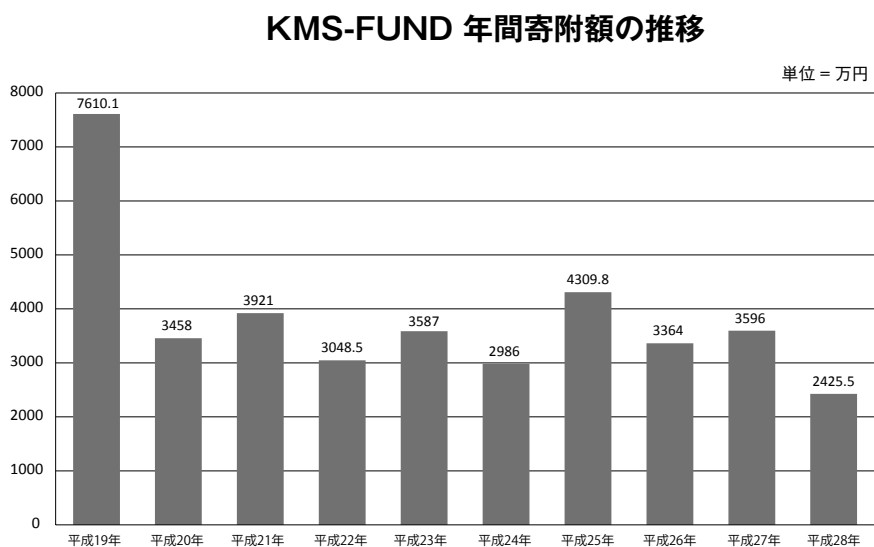
第10回 京都大学医学部校友会
総会・講演会のお知らせ
日時：平成29年10月7日(土) 午後1時より
場所：芝蘭会館本館 稲盛ホール
特別講演：京都大学名誉教授 成宮周 先生
懇親会：バーティー・芝蘭会館本館山内ホール
申し込み受け付けは追って連絡します。

す。医師法第一条には、
日本WHO協会」がよ
く知られています。

医師は「国民の健康な生
活を確保する」という旨
が書かれています。【国
民】とは誰を指し、【健
康】とは誰を指し、【健
康な生活】を確保する
とは具体的にどのような
行動を指すのかは明記さ
れていません。しかし、
単に日本人の疾患の治
療をすることのみを意図
したものではないように
感じられます。【国民】
の定義については法律家
によっても解釈が様々な
ように、医師法における
【国民】は日本国民だけ
でなく、(世界中の)人々
と捉えるのが妥当なよう
です。【健康】の定義に
ついてはWHO憲章によ
る「病気でなく、弱く
ない」ということではな
く、肉体的にも、精神的
にも、社会的にも、すべ
てが満たされた状態(訳
…

最後にになりましたが、
今日までご指導くださ
った先生方に改めてお礼
申し上げます。今後とも
変わらぬご指導・鞭撻の
ほど、よろしくお願いいた
します。また、学生生活
を支えてくださった大学
職員の皆様、そして何よ
りもいつも温かく見守っ
てくださった家族の方
々に今一度感謝の言葉
を申し上げます。本当
にありがとうございました。

京都大学医学部医学科
の今後ますますの発展を
願い、卒業生代表の挨拶
とさせていただきます。



平成29年度 KMS-FUND 委員会メンバー

委員長	循環器内科学	教授	木村 剛
委員	腫瘍生物学	教授	小川 誠司
委員	消化器内科学	教授	妹尾 浩
委員	耳鼻咽喉科・学 頭頸部外科	教授	大森 孝一
委員	医療倫理学	教授	小杉 眞司
委員	人間健康科学	教授	山田 重人
委員	大学院教 育ス	教授	陣上 久人
委員	芝蘭会	事務局長	山田 均
委員	医学研究科	事務部長	川口 泰史

事業計画など承認 芝蘭会評議員会・理事会



平成29年3月11日(土) 芝蘭会館別館に於いて芝蘭会評議員会および理事会が開催された。写真。

議案は、(1)平成29年度事業計画及び収支予算について、(2)産学情報交流部の将来展望について、(3)レストラン「しらん」の業務委託先について、(4)その他についてで、議案(1)については、平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)について説明があり、原案どおり承認された。

議案(2)については、

産学情報交流部の将来展望について説明があり、社会的に公正な活動を行うことを条件に承認された。

議案(3)については、レストラン「しらん」の業務委託先の選定経緯、業務委託の移行に係るスケジュール等について説明が行われ、審議の後、異議なく承認された。

議案(4)については、上本会長より平成28年度の決算書類並びに事業報告を審議するための総会を平成29年6月3日(土)

医師のマナー患者のマナー

よりよい医療のための提言

バリー・シルバマン、ソール・アドラー著
京都大学名誉教授・天理医療大学長 吉田修 監訳
大西 郁子 訳



療者のマナーに警鐘を鳴らす。医療者・患者双方の心遣いや礼儀正しさが、お互

普遍的命題への指針

本書は大変ユニークな視点から著された、患者さんたちに対するガイドブックとも呼ぶべき書物である。それとともに、医療者のマナーが医療成果(アウトカム)にいかにか大きな影響を与えるかと

いうことについて、あらためて医療者に気づきを与える書物でもある。著者の二人はともに米国第一線の教育病院のベテラン医師であり、米国の医療事情が本書の背景になるため、保険制度な

が、これは外用でも関節内に届き、効果が内服に比して劣らずさらに副作用も少ないという報告があります。ステロイドの注入は副作用が大きいことから頻回に行うことのないように注意します。効果は劣りますが副作用がなく安全なヒアルロン酸注入も考慮されます。最近では structure modifying drug としてスタチンが注目されています。サイトカインや MMP を抑制する機序が考えられていますが、高容量での効果のため、現時点では全身投与では効果は期待できないのが課題です。 symptom modifying drug としてオピオイドが挙げられます。OA は心血管系の疾患で死亡するリスクを上昇させますが、これは歩行機能の低下によるもので、痛みは関係ありません。またオピオイドは転倒リスクを増加させるため、疼痛がひどい時は人工関節置換術が勧められます。実際、人工関節

による「私は、医師が病気を診るのと同じくらい慎重に、医師を観察しています」という患者の立場からの言葉が紹介されている。患者はいかに心細い状態であるか、医師に対する信頼が患者の治療結果にどれほど強く結びつくかが本書では繰り返し述べられている。

近年、人工知能技術(II)は人間を超えるのか、世界中で論争が巻き起こっている。医療や介護分野においても、ICU の利活用に加え、ビッグデータと人工知能、ロボットなどの新技術の活用へと加速化が顕著であ

る。昨年も、60代の白血病患者に罹患した日本人女性が標準治療に良い反応を示さず医療スタッフに苦慮していたケースで、IIである「ワトソン」に患者のデータや関連文献を入力しただけで10分後に二次性白血病という診断名が導き出され、患者が見事に救命されたというニュースがあった。

IIやロボットの医療現場への導入が加速化するなかで、近未来の医療がどう変わろうとも医療者に普遍的に求められている決して変わらないものが何かを本書は提言してくれている。

新専門医制度の現状学ぶ



山口育子理事長の講演が行われた滋賀支部総会

支部だより

【滋賀】

平成28年10月15日(土)

今津サンブリッジホテルにて、平成28年度芝蘭会

教育制度の変革、病棟の改修、キャンパス内の新施設について説明されました。

【島根】

平成28年11月5日(土)

サンラボーむらくもにて芝蘭会島根支部総会が開

催されました。初めに当番世話人の池田登先生より開会の辞、物故会員黙

祷、続いて支部長の中川正久先生よりあいさつがあり、島根支部の会員数は減少してきてい

るが、この会を大切にしたいと仰っています。

講義に続いて京都大学大学院医学研究科 感覚運動系外科学講座 松田秀一先生より、芝蘭会本部報告と「膝関節痛のマネジメント」と題した特別講演が行われました。大学の

滋賀支部総会が行われました。講演会の冒頭に、支部長である折田雄一先生から超高齢社会の現状と医師の役割、および昨今の学生の質の低下に関する懸念についてお話しいただきました。また、大学報告として京都大学大学院医学研究科長・医学部長の上本伸二教授が

続いて、認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長の山口育子様から「新専門医制度の動向」と題してご講演いただきました。COMLとは「自立、成熟し立体的医療参加ができる賢い患者」を目指して1990年から活動している団体で、患者から

【島根】

平成28年11月5日(土)

サンラボーむらくもにて芝蘭会島根支部総会が開催されました。初めに当番世話人の池田登先生より開会の辞、物故会員黙

祷、続いて支部長の中川正久先生よりあいさつがあり、島根支部の会員数は減少してきてい

るが、この会を大切にしたいと仰っています。

講義に続いて京都大学大学院医学研究科 感覚運動系外科学講座 松田秀一先生より、芝蘭会本部報告と「膝関節痛のマネジメント」と題した特別講演が行われました。大学の

置換術は心血管系合併症のリスクを下げる事が示されています。さらに regenerative therapy も注目されています。間葉系の細胞が集まって構造体を作ることを利用して、それを埋め込んで骨軟骨を再生させる治療が考えられています。しかしこれには大量の細胞が必要で、現在の試験段階ではボランティアの脂肪組織からの抽出に頼っています。将来的にiPS細胞のストックから作製することと、3年後の臨床応用を目指しているそうです。

最後に手術療法にも触れられていました。先に述べたように、薬物療法や装具療法でも痛みが強い場合は手術を行うことが勧められます。人工膝関節置換術(TKA)は日本年間8万件行われています。手術面でも多くの進歩が見られています。関節周囲多剤カクテル療法により疼痛は著減し、関節内にトラネキサム酸を入れておくことでドレーンの必要頻度も減

糖尿病と治療薬、詳しく



稲垣暢也病院長の講演が行われた近畿北支部総会

【近畿北】

平成28年11月5日、公立豊岡病院にて、平成28年度芝蘭会近畿北支部学術講演会および、総会・懇親会が開催されました。

はじめに、丹後中央病院病院長の西島直城先生から開会のあいさつをいただき、その後、特別講演として、京都大学医学部附属病院病院長の稲垣暢也先生から「糖尿病をとりまく最近の話題」についてお話いただきました。

今日の日本において、糖尿病は患者数にして約1000万人、予備軍は2000万人近いと言われる頻度の高い病気であり、合併症として失明や腎不全が大きな問題となっています。

糖尿病は遺伝的要因に環境因子、加齢が重なり、インスリン分泌能の低下とインスリン抵抗性の増加を背景に高血糖に至る疾患で、日本人の2型糖尿病はインスリン分泌能の低い日本人の糖尿病には特に効果的であり、また食後低血糖の是正や、低血糖に陥りにくい等のメリットもあるとのことでした。

SCF2阻害薬についてもお話いただき、感染や脱水、ケトアシドーシスのリスクについて、また心血管イベントの低下、腎機能の保護作用などについて詳しく知ることが出来ました。

また、高齢者の糖尿病の増加を背景に、日本糖尿病学会と日本老年医学会が2016年に合同で発表した「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値」についても説明がありました。合併症の予防を基本にしつつも、高齢者では重症低血糖による転倒や認知症のリスクが高いため、患者個別に血糖コントロールの下限を設けるなどの考えが盛り込まれているそうです。

学術講演会のあとは、会場を移して総会・懇親会が終始和やかな雰囲気で行われました。学生である自分にも多くの先生方が気さくに話しかけてくださり、有意義な時間を過ごさせていただきました。

この会を通して多くの貴重なお話を聞くことが出来ました。最後ではありますが、このような会に参加する機会を与えてくださったことに感謝いたしまして、支部報告を終わらせていただきます。(文責：5回生 菅原聡真)

健康科学フォーラム開催



和気あいあいとした雰囲気で行われた東京支部総会

【東京】

平成29年1月21日(土)、学士会館にて平成28年度芝蘭会東京支部総会ならびに第15回京都大学健康科学フォーラムが開催されました。

第一部として、総会は二木隆先生、大高道也先生の司会のもと、物故会員への黙祷、平成28年度事業報告、同会計報告、平成29年度事業計画、同新入会員の紹介、および芝蘭会副会長(京都大学医学部附属病院病院長の稲垣暢也先生による芝蘭会本部報告と順次進められました。

その後、第二部として、第15回京都大学健康科学フォーラムが二木先生、

断することはできませんでした。2010年以降は、血糖値とHbA1cの測定を組み合わせた新しい診断基準により、一回で診断可能になりました。治療薬については、経口血糖降下薬についての解説がありました。機序としては、インスリン抵抗性改善系、インスリン分泌促進系、糖吸収・排泄調整系があります。インスリン分泌が欧米人の1/2である日本人はインスリン分泌促進系であるG薬、グリニド薬、DPP-4阻害薬が使われています。中でも最近開発されたDPP-4阻害薬は、他の2つと異なり低血糖のリスクが少ない画期的な薬であり、すでに7割近い患者に使われているとのことでした。

馬淵先生による講演は「医学医療のパラダイム変換」と題され、医学医療の未来について述べられました。現代の超高齢人口減少、多死社会では、今までの治す医療以上に治し支える医療を可能にする地域包括ケアシステムが必要となっています。また、QOL(死の質)までも高められる医療が必要とされています。さらに、病気の予防も重要視され始め、健康管理を企業経営の観点から戦略的に実践する健康経営が台頭しています。そして今世界的ムーブメントになりつつあるのがMindfulnessです。これは、「今、この瞬間の体験に意図的に意識を向け、評価をせずに、とらわれない状態でただ見ること」であり、禅から宗教的要素を抜き取ったものです。これらの動きを俯瞰すると、これ

画像診断最前線巡り講演



富樫おかり教授の講演があった和歌山支部総会

【和歌山】平成29年2月5日(日)、ホテルアパローム紀の国にて、平成29年度芝蘭会和歌山支部総会が開催されました。

まず、梅岡成章先生の座長・司会のもと、支部長である平岡真寛先生からのごあいさつがあり、その後、学術講演が行われました。講演は「1」強調、「2」強調、造

リサーチセンターが京大にも設置され利用が進められているとのこと。また、広くZDDBのデータを活用できるように、去年の10月にはウェブ上でZDDBオープンデータも公開されました。

講演終了後には会場を移し、大高先生の司会のもと懇親会が行われました。懇親会中は先生方の自己紹介や近況報告が行われ、多くの先生方が我々雑誌部員にも気さくにお声をかけてくださり、ためになる話も多々拝聴でき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。会は終始和気あいあとした雰囲気が進み、宴もたけなわとなりましたが、やがて惜しまれながらも締めくくられ、解散となりました。

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成29年4月28日(金)現在

・「三井住友銀行」利用のご寄付

310人(法人を含む)

56,290,000円

うち、50万円以上のご寄付は56人(法人を含む)

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄付

251人

5,967,000円

うち、50万円以上のご寄付は2人

計561人(法人を含む)

62,257,000円

最後にになりましたが、このような素晴らしい会にお招きいただいたことに感謝の意を持って、芝蘭会東京支部総会・懇親会の報告を終わらせていただきます。(文責：2回生 谷本将崇)

また隣に席を移して総会と懇親会が行われました。総会では会計報告やあいている役職の後任の先生を決めるなどの話し合いが行われ、それに続いて講演会でもお話しになりました富樫先生から京都大学病院の現状についてのお話しがありました。懇親会の途中では参加された先生方が順番に自己紹介をされ、たくさん先生方が学生である私たちにも話しかけてくださり、現在の大学の学生の様子やカリキュラムなどに興味を持たれていました。また、私は去年も和歌山支部の支部総会にお邪魔させていただいており、先生方からも親しく接して頂いて非常に和やかな雰囲気を楽しみました。こうして宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも解散となりました。

最後にはなりませんが、この会を通して貴重な話をたくさん聞くことができました。このようないかに会にお招きくださったことへの感謝の意をもって和歌山支部の報告を終わらせていただきます。(文責：4回生 吉平智博)

人 事 異 動

発令年月日	氏 名		異動内容
H29.2.1	長尾 美紀	昇任	検査部講師より 臨床病態検査学准教授へ
H29.2.1	山崎 和裕	昇任	心臓血管外科助教より 同講師へ
H29.2.1	田中 司朗	採用	健康解析学薬剤疫学准教授より 臨床統計学特定教授へ
H29.2.28	星 美奈子	辞任	形態形成機構学特定准教授より 公益財団法人先端医療振興財団医薬品研究開発部上席研究員へ
H29.2.28	藤田 伴子	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定准教授より 小野薬品工業株式会社ファーマコビジランス部メディカルドクターへ
H29.3.1	万代 昌紀	採用	近畿大学教授より 婦人科学・産科学教授へ
H29.3.1	辻川 明孝	採用	香川大学教授より 眼科学教授へ
H29.3.31	金子 武嗣	辞任	高次脳形態学教授より
H29.3.31	西村 幸男	辞任	神経生物学准教授より 公益財団法人東京都医学総合研究所プロジェクトリーダーへ
H29.3.31	園下 将大	辞任	システム神経薬理学准教授より Icahn School of Medicine at Mount Sinai Postdoctoral Fellow へ
H29.3.31	安部健太郎	辞任	生体情報科学講師より 東北大学教授へ
H29.3.31	大坪 徹也	辞任	医療経済学助教より 国立大学病院データベースセンター特定講師へ
H29.3.31	小林 果	辞任	環境衛生学助教より 中部大学生命健康科学部准教授へ
H29.3.31	平家 俊男	辞任	発達小児科学教授より 兵庫県立尼崎総合医療センター院長代理へ
H29.3.31	松村 謙臣	辞任	婦人科学・産科学准教授より 近畿大学教授へ
H29.3.31	安近健太郎	辞任	肝胆膵・移植外科学講師より 日本赤十字社和歌山医療センター医師へ
H29.3.31	長嶋 一昭	辞任	糖尿病・内分泌・栄養内科学講師より 京都桂病院内分泌・糖尿内科部長へ
H29.3.31	山下 博史	辞任	臨床神経学講師より 日本赤十字社和歌山医療センター神経内科部長へ
H29.3.31	伊藤 克彦	辞任	分子病診療学准教授より 医療器材部准教授へ
H29.3.31	服部 雅一	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定教授より 医学研究科研究員へ
H29.3.31	芦田 昇	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定講師より 循環器内科特定講師へ
H29.3.31	宮川 文	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定准教授より 関西医科大学病院准教授へ
H29.3.31	青木 友浩	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定准教授より 国立循環器病センター創薬基盤研究室長へ
H29.3.31	梶谷 宇	辞任	次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点(AK) 特定准教授より
H29.3.31	疋田 貴俊	辞任	神経・細胞薬理学特定准教授より 大阪大学蛋白質研究所教授へ
H29.3.31	伊藤 和史	辞任	医学教育推進センター特定准教授より 総合臨床教育・研修センター特定准教授へ
H29.3.31	木下 武彦	辞任	健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定講師より

発令年月日	氏 名		異動内容
H29.3.31	石井加代子	辞任	健康長寿社会の総合医療開発ユニット特定教授より 病院研究員へ
H29.3.31	谷向 仁	辞任	寄附講座（臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座）特定准教授より 人間健康科学系専攻准教授へ
H29.3.31	田中 智洋	辞任	メディカルイノベーションセンターTK・NASH特定准教授より 名古屋市立大学准教授へ
H29.3.31	金子 武人	辞任	附属動物実験施設特定講師より 岩手大学准教授へ
H29.3.31	本田 直樹	辞任	病態生物医学特定准教授より 生命科学研究所特定研究員へ
H29.3.31	佐藤 格夫	辞任	救急部准教授より 愛媛大学大学院医学系研究科救急航空医療学講座教授へ
H29.4.1	鎌谷洋一郎	採用	理化学研究所チームリーダーより 疾患ゲノム疫学准教授へ
H29.4.1	平島 剛志	採用	ウイルス・再生医科学研究所特定助教より 病態生物医学講師 へ
H29.4.1	CHAO, Chen Hwai	採用	医学教育推進センター特定講師より 医学教育・国際化推進センター 講師へ
H29.4.1	吉澤 明彦	昇任	病理診断科講師より 総合解剖センター 准教授へ
H29.4.1	小川 正晃	昇任	神経生物学助教より 同講師へ
H29.4.1	國澤 進	採用	医療経済学特定講師より 同講師へ
H29.4.1	増井 俊彦	採用	診療報酬センター特定病院助教より 肝胆膵・移植外科学講師へ
H29.4.1	室 繁郎	昇任	呼吸器内科学講師より 同准教授へ
H29.4.1	松尾 幸憲	昇任	放射線腫瘍学・画像応用治療学講師より 同准教授へ
H29.4.1	瀬川 一	昇任	集中治療部講師より 麻酔科学准教授へ
H29.4.1	葛谷 聡	昇任	神経内科助教より 臨床神経学講師へ
H29.4.1	原田 範雄	昇任	糖尿病・内分泌・栄養内科学助教より 同講師へ
H29.4.1	嶋田 和貴	採用	福井大学特命助教より 寄附講座（臨床腫瘍薬理学・緩和医療学講座）特定講師へ
H29.4.1	荒木 通啓	採用	神戸大学特命准教授より 寄附講座（臨床システム腫瘍学講座特定教授）特定教授へ
H29.4.1	大塚 篤司	採用	皮膚科助教より 外胚葉性疾患創薬医学講座特定准教授へ
H29.4.1	後藤 慎平	採用	呼吸器内科特定助教より 呼吸器疾患創薬講座特定准教授へ
H29.4.1	尾上 浩隆	採用	理化学研究所チームリーダーより 神経生物学特定准教授へ
H29.4.1	桑原 康秀	昇任	寄附講座（地域医療システム学講座）特定助教より 同特定講師へ
H29.4.30	濱崎 洋子	辞任	免疫細胞生物学准教授より iPS 細胞研究所教授へ
H29.4.30	浅沼 克彦	辞任	メディカルイノベーションセンターTMK特定准教授より 千葉大学大学院医学研究院教授へ
H29.5.1	松本 久子	昇任	呼吸器内科助教より 呼吸器内科講師へ

会 員 訃 報 （敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

甲田 誠 昭和 22 年卒 平成 28 年 9 月 3 日 ご逝去
黒川 正夫 昭和 23 年専卒 平成 15 年 4 月 13 日 ご逝去
伊藤 憲一 昭和 24 年卒 平成 29 年 1 月 5 日 ご逝去
五十嵐哲也 昭和 27 年卒 平成 28 年 5 月 6 日 ご逝去
大谷 圭三 昭和 28 年卒 平成 29 年 3 月 28 日 ご逝去
田中 辰雄 昭和 28 年薬卒 平成 28 年 8 月 23 日 ご逝去
近藤 幸夫 昭和 28 年薬新卒 平成 28 年 12 月 13 日 ご逝去
藤多 哲朗 昭和 28 年薬新卒 平成 29 年 1 月 1 日 ご逝去

斎藤 晃 昭和 29 年卒 平成 29 年 3 月 29 日 ご逝去
河村 禎視 昭和 30 年卒 平成 29 年 1 月 21 日 ご逝去
田村 陽市 昭和 31 年卒 平成 29 年 1 月 24 日 ご逝去
真田 恵子 昭和 34 年薬卒 平成 29 年 2 月 6 日 ご逝去
栗原孝一郎 昭和 37 年卒 平成 29 年 2 月 11 日 ご逝去
西井 晃 昭和 38 年卒 平成 27 年 2 月 16 日 ご逝去
内田 立身 昭和 39 年卒 平成 29 年 2 月 10 日 ご逝去
小林 國男 昭和 39 年卒 平成 28 年 12 月 22 日 ご逝去

広川 栄助 昭和 40 年院卒 平成 28 年 12 月 19 日 ご逝去
好井 覚 昭和 51 年卒 平成 28 年 6 月 28 日 ご逝去
濱崎 周次 昭和 61 年院卒 平成 29 年 3 月 28 日 ご逝去
秋田 行朗 平成 8 年卒 平成 29 年 1 月 26 日 ご逝去
星野 一正 教室会員 解剖 3 平成 29 年 4 月 4 日 ご逝去
大橋謙太郎 教室会員 内科 3 平成 28 年 12 月 1 日 ご逝去
大薊以手紙 教室会員 内科 3 平成 29 年 4 月 12 日 ご逝去
大阪 節子 教室会員 皮膚科 平成 28 年 11 月 14 日 ご逝去

管理総務局長
課長 芝蘭会事務局
濱崎秋山和博
康美均

村健太（以上2回生）
谷本将崇、西垣利彦、西
生（以上3回生）
生）加古敦也、松本一希
史、蔡嗣錡（以上5回
志、菅原聡真、朴 剛
回生）梅本大地、井上大
裕太、中田 愛（以上6
部員 高屋龍生、西川
顧問 高折晃史
誠、松村由美、阿部 恵
芝蘭会雑誌部

委員 斎藤信雄、岩田
委員 高折晃史
芝蘭会報編集委員会

原 稿 募 集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場
であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介(自
薦・他薦) 及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿
ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、
編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成 17 年 4 月からの「個人情報保護法」の全面施行
により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられま
した。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、
必要理由等を明記の上、郵便または FAX により事務局
までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え
致しかねますのでご了承ください。
(FAX 075-752-4015)

ご注意ください

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたつて、個人
情報（住所、電話番号等）を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということ
を会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、く
れどもご注意くださいますようお願いいたします。
芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせは
いたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会費納入は自動振替で

会員の方々の芝蘭会費納入方法として、「銀行口座等
からの自動引き落とし」を採用させていただいております。
会費納入のお手間が大幅に省かれ、会費の二重払い
の防止にもつながります。
ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

お問い合わせ、手続き等については、

芝蘭会事務局

TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015

までお問い合わせください。